

令和6年度 雲南市立病院 医療出前講座「飛び出す！雲南病院講座」メニュー一覧

Table with 4 columns: No., テーマ, 内容, 担当部署. Contains 39 items of medical and health-related topics.



AI問診とは、今までの紙の問診票に代わり、スマートフォンやパソコン、タブレット端末などによりAI（人工知能）が患者さんの症状に応じた最適な質問を自動で行う問診システムです。

対象となる診療科

- 内科 ○小児科 ○産婦人科

対象となる方

- 当院を初めて受診される方
○受診したことはあるが、新たな症状で受診される方
○前回の受診から3ヵ月以上期間が空いている方

利用方法 (自身のスマートフォンなどを使用される場合)

- ①病院ホームページからAI問診専用ページに入ってください。
②WEB上で問診に回答してください。
③回答終了後にPHから始まる受付番号が発行されます。必ず受付番号を記録して来院してください。
④来院後、受付番号をお伝えください。



こちらの二次元コードを読み取り、専用ページに入ることも可能です。

※AI問診では受け付けはできません。従来どおり受付機で受け付けを行ってください。

問い合わせ先：雲南市立病院 経営課 TEL 0854-47-7500

医療出前講座「飛び出す！雲南病院講座」

総務課 TEL 0854-47-7532 FAX 0854-47-7501

当院では、平成22年度より「病気の早期発見」、「生活習慣病などの予防」や「医療に関する情報の提供」などを目的に医療出前講座を行っており、令和6年度も、地域住民の皆さんが「知りたい」、「聞いてみたい」内容の講座となるよう多様なメニューを用意しています。

対象：原則、市内に在住、在勤、在学している10人以上の団体、グループなどです。

会場：市内に限ります。

時間：土・日・祝日を除く平日の14時から17時までのうち1時間程度です。

講師料：無料です（ただし、実習費などについては実費負担していただきます）。

申し込み：開催予定日の2ヵ月前までに市立病院総務課へ申込書を持参いただくか、市立病院ホームページ・電話・FAXで申し込んでいただき、日程調整をさせていただきます。

その他：会場の手配、参加者への連絡等は主催者側でお願いします。

営利を目的とされる場合は申し込みはできません。

雲南病院だより



市立病院ホームページ 出前講座

総合診療医が答える

# 「こんな症状や疑問 持っていませんか？」

## 第46回：「体重が減ることは危険ですか？」

このシリーズでは総合診療医が患者さんからいただいた質問をもとに市民の皆さんが困っている症状や疑問について解説します。

先日いただいた質問はこれです。

**「最近、体重がだんだん減ってくるのですが、大丈夫ですか」**

体重は年齢と共に、徐々に減っていくといわれており、高齢になると痩せ型の方が増えてきます。ただ体重減少もその程度によって、危険性が変わってくるのが最近の研究で分かっています。

最近の研究では、**「10%以上の体重減少を経験している方は、1年以内にがんになるリスクが上がる」と**いわれています。

特に、**胃や大腸のがんに関しては、体重が急に減ってくる場合は要注意**とされています。

雲南市では、胃がんや大腸がんの頻度が高いと言われていますので、予期しない体重減少がある場合は、症状は乏しくても、かかりつけ医に相談し、**胃カメラや便潜血検査**について相談してください。

がんは早期発見早期治療で、健康寿命が伸びますので、検診をしっかり受けたいですね。

がん検診の種類	検診方法	対象年齢	検診間隔
胃がん検診	問診、胃部X線検査または胃内視鏡検査	50歳以上 ※胃部X線検査は40歳以上に対し実施可	2年に1回 ※胃部X線検査は毎年実施可
大腸がん検診	問診、便潜血検査	40歳以上	毎年
肺がん検診	質問（問診）、胸部X線検査、喀痰細胞診（対象該当者）		
乳がん検診	問診および乳房X線検査（マンモグラフィ） ※視診、触診は推奨しない		
子宮頸がん検診	問診、視診、細胞診、内診、必要に応じてコルポスコープ検査	20歳以上	2年に1回



新入職員

## 新入職員研修

今年度になって21人の新入職員を迎えました。4月1日（月）には新任医師を除く新入職員は全体での新人研修を行い、就業規則や保険診療などについて受講しました。2日以降は、新人看護師が集合研修と各病棟での個別指導に現在も繰り返し取り組んでいます。新人看護研修ではBLS（一次救命処置）や輸液管理などを行い、先輩看護師から指導やアドバイスを

を受けながら病棟で実践を積んでいます。その他の職種はそれぞれの部署での業務にあたりながら感染症対策などの研修も受講しました。新入職員の皆さんは一日でも早く環境に慣れて現場で活躍できるように日々研鑽に努めています。院内全体で皆さんをサポートしていきます。

研修の様子▶



## 入院診療費の計算方法が変わります ～DPC対象病院への移行～

雲南市立病院 経営課

当院は、6月1日から厚生労働省が指定する「DPC対象病院」になります。これにより、急性期一般病棟（2階、3階西、4階西病棟）に入院される患者さんの入院診療費の計算方法が、従来の「出来高評価方式」から、「DPC制度（診断群分類別包括評価方式+出来高評価方式）」へ変更になります。

### DPC（診断群分類別包括評価）とは

従来の診療行為ごとに料金を計算する“出来高評価方式”とは異なり、患者さんの病名や症状を基に手術などの診療行為の有無に応じて、厚生労働省が定めた1日あたりの入院費が定額になる部分と、出来高部分（手術、麻酔、リハビリなど）を合算する計算方法です。

従来の計算方式 【出来高評価方式】	今後（6月から）の計算方式 【DPC制度】										
診療行為をひとつひとつ積み上げて計算する方式	1日あたりの定額と、出来高を合算する方式										
<table border="1"> <tr><td>入院基本料</td></tr> <tr><td>投薬料・注射料</td></tr> <tr><td>検査料</td></tr> <tr><td>画像診断料</td></tr> <tr><td>処置料 など</td></tr> </table>	入院基本料	投薬料・注射料	検査料	画像診断料	処置料 など	<table border="1"> <tr><td>入院基本料</td></tr> <tr><td>投薬料・注射料</td></tr> <tr><td>検査料</td></tr> <tr><td>画像診断料</td></tr> <tr><td>処置料 など</td></tr> </table>	入院基本料	投薬料・注射料	検査料	画像診断料	処置料 など
入院基本料											
投薬料・注射料											
検査料											
画像診断料											
処置料 など											
入院基本料											
投薬料・注射料											
検査料											
画像診断料											
処置料 など											
<table border="1"> <tr><td>リハビリテーション料</td></tr> <tr><td>手術・麻酔料</td></tr> <tr><td>その他一部の検査、処置料、退院時処方など</td></tr> </table>	リハビリテーション料	手術・麻酔料	その他一部の検査、処置料、退院時処方など	<table border="1"> <tr><td>リハビリテーション料</td></tr> <tr><td>手術・麻酔料</td></tr> <tr><td>その他一部の検査、処置料、退院時処方など</td></tr> </table>	リハビリテーション料	手術・麻酔料	その他一部の検査、処置料、退院時処方など				
リハビリテーション料											
手術・麻酔料											
その他一部の検査、処置料、退院時処方など											
リハビリテーション料											
手術・麻酔料											
その他一部の検査、処置料、退院時処方など											
	①×病院係数+②=入院診療費										
	※リハビリテーション、手術、一部の検査、処置料などは、1日あたりの定額（包括評価）とは別に「出来高方式」により算定されます。また、包括評価の点数は、入院日数に応じて異なります。なお、病院ごとに一定の係数（病院係数）が定められており、同一の診断・治療であっても、病院によって医療費の総額が異なります。										

なお、対象となるのは6月1日以降、新たに急性期一般病棟（2階、3階西、4階西病棟）へ入院された患者さんからとなります。厚生労働省で指定された一部の病気につきましては、現在と同様に「出来高評価方式」となります。

また、外来診療費、急性期一般病棟以外の入院診療費はこの対象ではありません。

### DPC（診断群分類別包括評価）制度に関する質問（Q&A）

- Q）DPC制度を導入する目的は何ですか。**  
**A）** DPCは国の政策として急性期医療を担う一定の施設基準を満たした病院に導入されています。その目的は、医療の質の向上と医療の標準化（科学的根拠に基づいた現時点で最も効果的な医療、どこの病院でも同じ病気であったら同じ治療を受けることができること）にあります。
- Q）DPC対象病院になると診療の内容が変わるのでしょうか。**  
**A）** 当院での医療および診療方針は今までと変わりなく、入院中の治療として必要と判断される診療行為は従来どおり行います。ただし、必ずしも入院中に行わなくてもよいと判断した診療行為については、入院前もしくは退院後に外来受診していただく場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- Q）早く退院させられる事はありませんか。**  
**A）** 入院・退院の判断は医師が医学上の判断に基づいて行います。医療の必要があるにもかかわらず早く退院を願うことはありません。急性期治療（一般病棟）の期間が過ぎた場合は、地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟や医療療養病棟へ移動していただく場合もありますのでご了承ください。
- Q）出来高評価方式と比べて、入院診療費は高くなるのでしょうか。**  
**A）** DPCでは入院している間の病名や診療内容によって、1日当たりの診療費が決まるため、出来高払いと比べて、高くなる場合もあれば、安くなる場合もあります。また、病院の機能によって厚生労働省が定めた係数もあるため、同一の傷病で治療を行った場合でも、病院によって入院医療費が若干異なることがあります。
- Q）一部負担金の取り扱いはどうなるのでしょうか。**  
**A）** 医療費の一部負担金の支払い方法に関しては、これまでと変わりません。患者さんが加入されている健康保険の負担割合に応じて支払うこととなります。高額医療費制度や公費の取り扱いに関しても、これまでと変わりません。
- Q）食事代もこの料金に含まれるのでしょうか。**  
**A）** 食事代は、従来どおり別に負担していただくこととなります（1食あたりの料金単価×食数×日数）。
- Q）医療費の支払い方法は変わりますか。**  
**A）** 医療費の支払い方法は、従来どおり月単位での支払いとなります。退院の患者さんは、退院の日にお支払いをお願いします。